学習英文法における比較表現の再考

松田佑治

Abstract

This paper aims to review comparative expressions in pedagogical English grammar and discuss the latest relevant English linguistics research findings. Section 2 presents the most frequently used *ly*-adverbs that modify the comparative degree: *significantly*, *slightly*, *considerably*, and *substantially*. However, usually *ly*-adverbs such as *highly* and *fairly,* do not modify the comparative degree because they do not emphasize the degree of relative difference. Section 3 discusses a case where an adjective or adverb's superlative degree can be the antecedent of a sentence. Whereas antecedents are typically nouns, this is not the case in the following sentence: "The price of gold is the lowest it has been for ten years"（Huddleston and Pullum, 2002）. Section 4 assesses an old-fashioned expression "as ... as ever lived," which is still taught in Japan, although it is outdated and thus not appropriate for use in the current English textbooks.

キーワード：比較級を修飾する ly 副詞，形容詞・副詞の最上級形の先行詞，as ... as ever lived

1．はじめに

高校生にとって難度が高い学習項目の一つが「比較」である。そのため，英語学の知見を「比較」に活かそうとする試みも少なくはない。例えば，滝沢（2017: 193-215）は最上級形を巡る諸問題に注目し，最上級形は基本的には「首位」「上位」を示すものの，序数詞を伴う「順序」の用法において，必ずしも上位とは言えないものについても使われると指摘している。また，澤田（2018）は，as ... as 構文の正確な解釈について論じている。しかし，英語学の知見を活かせると思われる「比較」項目は，未だに残されている。また，コーパスなどの大規模な言語データベースを用いて，改めて再考すべき比較表現もある。

そこで，本稿では，「比較」の学習項目において取り上げられている比較表現を再考する。その上で，学習者や指導者において有益と思われるような最新の英語学の成果や，コーパスなどの調査結果を精査した上で，教育現場に還元することを試みる。

本稿の構成は以下の通りである。2 節では，比較級を修飾する ly 副詞をコーパスを用いて検証する。3 節では，教員側が把握しておくべき事例として，最上級形の形容詞・副詞が関係詞構文の先行詞となる事例を掘り下げる。4 節では，八木・井上（2013）を踏まえ，学習参考書[1)]に as ... as ever lived を載せる意義を改めて検討する。5 節は結語である。

2. 比較級を修飾する ly 副詞

2.1 比較級を修飾する副詞

『ジーニアス総合英語』は，比較級を強調するには，比較級の直前に much / far / a lot などを置き，弱めるには a little / slightly / somewhat / a bit などを置く，と以下の例文を基に説明している（以下，すべての例文は特記しない限り，イタリック・太字・訳は原文ママである。また，例文中の下線はすべて引用者によるものである）。

（1）Human beings are ***much*** **more intelligen**t than animals.
人間は動物よりずっと知性がある。

（2）This watch is ***a little*** **more expensive** than that one.
この時計はあの時計より少しだけ高価だ。

（『ジーニアス総合英語』p. 265）

そして，「much は比較級を強める最もふつうの表現である」（p. 265）とし，「比較級を強めるのに very は使わない」(p. 266) とも注意を促している。もちろん，この記述は高校生や教員にとっても馴染みがあろう。しかし，筆者が大学生に与える課題の英文中には，それ以外の副詞が比較級を修飾する事例を目にする[2)]。具体的には，slightly 以外の ly 副詞も共起するような事例である。そこで，本節では比較級を修飾する ly 副詞をコーパスを用いた調査の上で明らかにする。

2.2 比較級と共起しやすい ly 副詞

正規表現を用いた精微な調査を行うため，使用コーパスは COCA（full text）[3)] を対象とする。まず，比較級の直前の ly で終わる 1 語の頻度を調査する。検索方法は，次の通りである。

検索方法 1: perl -ne ‘while（/\b（[a-z-]+ly）[a-z-]+er（[a-z-]+)?than\b/gi）{$a = lc $1; print “$a\n”}’ COCA（full text）| sort | uniq -c | sort -rn

意味 : COCA（full text）において，...er than の直前に生起する ly で終わる 1 語の頻度表を大文字から小文字に変換した上で作成しなさい。なお，er で終わる語の直後に単語 1 語が生起する場合も，生起しない場合も含む。[a-z-]+er には better も含まれる。

結果 :（ ）内は頻度数。以下同様。

significantly（1,769）	probably（322）	usually（120）
slightly（1,551）	actually（200）	barely（110）
considerably（576）	generally（159）	consistently（87）
substantially（325）	certainly（158）	頻度 82 以上

検索方法 2: perl -ne ‘while（/\b（[a-z-]+ly）（more|less）[a-z-]+（[a-z-]+)?than\b/gi）{$a = lc $1; print “$a\n”}’ COCA（full text）| sort | uniq -c | sort -rn

意味 : COCA（full text）において，比較級（more/less ... than）の直前に生起する ly で終わる 1 語の頻度表を大文字から小文字に変換した上で作成しなさい。なお，比較級 more/less ... の直後に単語 1 語が生起する場合も，しない場合も含む。

結果 :

significantly（742）	generally（144）	**substantially（96）**
slightly（421）	actually（127	usually（85）
considerably（359）	certainly（126）	vastly（84）
probably（304）	infinitely（99）	頻度 56 以上

太字で示した語は，検索方法 1 と 2 で共通して観察された「著しく，かなり，ずっと」などの意を示す ly 副詞と，『ジーニアス総合英語』（p. 266）が比較級を修飾する副詞として記載している slightly である。

次に，上記の 2 つの頻度表を基に，significantly, considerably, substantially および slightly の直後に生起する 1 語の頻度表を作成する。

significantly

検索方法 : perl -ne ‘while（/\bsignificantly（[a-z-]+）\b/gi）{$a = lc $1; print “$a\n”}’ COCA（full text）| sort | uniq -c | sort -rn

意味 : significantly の直後に生起する 1 語の頻度表を，大文字から小文字に変換した上で作成しなさい。

結果 :

higher（2,173）	related（644）	associated（482）
more（2,032）	to（587）	**better（409）**
different（1,279）	in（566）	correlated（392）
lower（994）	**greater（551）**	increased（382）
less（788）	from（550）	頻度 380 以上

considerably

検索方法 : perl -ne ‘while（/\bconsiderably（[a-z-]+）\b/gi）{$a = lc $1; print “$a\n”}’ COCA（full text）| sort | uniq -c | sort -rn

意味 : considerably の直後に生起する 1 語の頻度表を，大文字から小文字に変換した上で作成しなさい。

more（891）	**lower（164）**	**greater（75）**
less（508）	**smaller（110）**	by（72）
in（238）	since（103）	to（66）
higher（219）	**better（103）**	頻度 64 以上
from（173）	**larger（94）**	

substantially

検索方法 : perl -ne ‘while（/\bsubstantially（[a-z-]+）\b/gi）{$a = lc $1; print “$a\n”}’ COCA（full

text）| sort | uniq -c | sort -rn

意味 : substantially の直後に生起する 1 語の頻度表を，大文字から小文字に変換した上で作成しなさい。

more（330）	different（167）	increase（97）
higher（230）	reduced（157）	**greater（83）**
in（215）	to（147）	the（76）
less（174）	reduce（108）	**larger（68）**
lower（167）	increased（101）	頻度 63 以上

slightly

検索方法 : perl -ne ‘while（/\bslightly（[a-z-]+）\b/gi）{$a = lc $1; print “$a\n”}’ COCA（full text）| sort | uniq -c | sort -rn

意味 : slightly の直後に生起する 1 語の頻度表を，大文字から小文字に変換した上で作成しなさい。

more（1,960）	and（518）	**better（350）**
different（1,323）	in（513）	as（330）
less（935）	**larger（440）**	bent（257）
higher（785）	**lower（380）**	**smaller（248）**
to（633）	from（356）	頻度 245 以上

上記の頻度表から, significantly, slightly, considerably, substantially と比較級（-er, more/less ...）が，共起しやすいことが示された[4]。また，considerably と比較級との共起に関して，八木（1987）が次のように述べている。

> **considerably** は主として比較・変化を表す語と共起するが（-er; reduce/elaborate/freshen/differ/pale/affect/vary; improved; different/remote）（*cf.* ??considerably good/quiet/try to V, Ernst 1984, p. 169），この意味からはずれる共起例も散見される（like/help/move around; smoky）。基本的には much の類語とみなせる。（下線は引用者による）
>
> 八木（1987: 195）

considerably が「比較・変化を表す語」と共起する点では，significantly, substantially, slightly も，上記の頻度表から概ね同様の傾向が窺える。また，比較級と共起傾向にある副詞は，同時に different とも共起傾向が観察され，increase, reduce のような動詞との相性もよいと思われる。

では，程度の高いことを示す ly 副詞の中でも，比較級を修飾できない ly 副詞に目を向けてみよう。複数の英語母語話者（個人談話）によれば，very だけではなく，highly, fairly も原則として，比較級を修飾できないとの見解を示す[5]。そして，fairly に関しては，八木（1987）が次のように述べる。

> **fairly/pretty** は very と同様に，動詞，名詞（句），比較級・too の修飾ができない。

（3）a.　*I *fairly* like her.

b.　**fairly* { a clear idea（cf. a *fairly* clear idea）
older than me/too young to do that }　八木（1987: 215）

同様に，*G*[5]（s.v. *fairly*）にも，fairly は比較級を修飾することができないと記述されている。

しかし，別の英語母語話者に筆者が意見を求めると，“I might even challenge your larger findings above and consider ‘fairly greater’ to work in certain contexts, especially colloquial.” との見解を示している。確かに，COCA[6] を検索すると，very, highly, fairly が比較級を修飾している実例がまったく存在しないわけではない。実際に，very で 54 例，highly で 3 例，fairly で 6 例観察される。

以上を踏まえ，筆者の見解を述べる。まず，「とても，かなり，極めて」を示す very/highly/fairly 型の副詞と，「著しく，かなりな，相当な」を示す significantly/considerably/substantially 型の副詞は，基本的に以下の 2 つを備えていると思われる。

（A）あるものに対して，程度の高さを増幅する機能。2 つの比較は前提ではない。
（B）あるものと別のものとの相対的な差を増幅する機能。または，ある個体内での点 A と点 B との差を増幅する機能。つまり，2 つの比較が前提である。

very/highly/fairly 型の副詞は，上記の 2 つの機能のうち，（B）よりも（A）の機能を強く持つために，比較級を修飾しにくいと考えられる。その一方，significantly/considerably/substantially 型の副詞は，（B）の機能を強く持つ。したがって，increase/decrease/reduce のような動詞とも共起する傾向に関しても，増加・減少する前後の 2 つを比べていると考えれば説明がつく。

さらに，（A）と（B）の違いを具体例から考えてみよう。例えば，substantially higher prices の解釈は，「かなり高い値段」とは限らない。なぜならば，1 円と 10 円のような少額を比較する状況も考えられるため，必ずしも値段そのものが高いとは限らないのである。よって，「比べてみるとかなり高い値段」が正確な解釈であり，後者の解釈は（B）の機能とも整合している。

2.3　本節のまとめ

本節では，COCA（full text）による頻度表から significantly, slightly, considerably, substantially と比較級は共起する傾向が高いことが明らかにした。その一方で，very, highly, fairly は「（A）あるものに対して，程度の高さを増幅する機能」を強く持つことから，比較級を著しく修飾しにくいと主張した。しかしながら，学習者に対しては，混乱を避けるため，very, highly, fairly は標準的な用法として，「比較級を修飾できない副詞」と提示する方が無難であろう。

今後の課題としては，今回の調査対象外であった「著しく，かなりな，相当な」の意を示す ly 副詞を調査する必要がある。例えば，強意語（intensifier）という語彙カテゴリーに属すると思われる ly 副詞は，他にも vastly, markedly, comparatively, remarkably, strikingly, noticeably,

markedly, strikingly, distinctly, disproportionately, overwhelmingly, amazingly, appealingly, surprisingly, extremely, satisfyingly など数多く存在する。これらの語と比較級との共起傾向をより幅広く調査した上で，それぞれの語が（A）（B）のどちらに偏りがあるかを明らかにしたい。

3. 形容詞・副詞の最上級形が名詞を伴わずに関係節の先行詞となる事例

本節では，形容詞･副詞の最上級形が名詞を伴わずに関係節の先行詞となる事例を取り上げる。これを取り上げる理由は，文部科学省検定済教科書でも実際に観察された事例であり，筆者がかつて高校現場で指導した際にも，多くの生徒がこの事例の解釈に戸惑ったためである。

3.1 最上級形の形容詞・副詞が名詞なしに先行詞となる事例

通常，教育現場では，関係節の先行詞となるのは名詞句，あるいは前文（の一部）と説明される。しかし，以下の例を見られたい。

（4）a. The price of gold is **the lowest** [*it has been for ten years*].
（金の時価は，この 10 年間で最低だ）
b. The system seems to be working **the most efficiently** [*that it has ever worked*].
（このシステムは，これまでで一番効果的に機能しているように思われる）
（Huddleston and Pullum（2002: 1169）, [ ] と訳出は引用者による）

（4a）は形容詞の最上級形が名詞を伴わずに先行詞となっている事例である。（4b）は副詞の最上級形が先行詞となっている。このような事例は, 従来の学習参考書の「先行詞は名詞句である」という記述に縛られると，解釈に戸惑う（この（4a, b）に関しては，河野（2012: 230, 2014: 31）や柏野（2012: 326）などでも取り上げられている）。

なお，Huddleston and Pullum（2002: 1169）は，（4a, b）のような事例の場合，ゼロ形の代わりに wh 関係詞を補うことはできないと指摘している（*the lowest which it has been for years.）。また，定冠詞 the は義務的（obligatory）としている。

3.2 the closest + 関係節

3.1 節で観察したように，形容詞の最上級形も関係節の先行詞になりうることを確認した。それを踏まえて，文部科学省検定済教科書（2014 年 3 月検定済）でも観察された最上級形の形容詞 closest が先行詞となる事例を見てみよう。

（5）a. Truth be told, this is the closest I've ever gotten to a college graduation.
（実を言うと，今ほど大学の卒業式に近づいたことはありませんでした）
（*CROWN English Communication III*, p. 146）
b. This was the closest I've been to facing death, and I hope it's the closest I get for a few more decades.

これが最も死に直面した瞬間であり，そして今後数十年はこれ以上近づかずに済むよう願っています）

（*CROWN English Communication III*, p. 152）

（5a, b）の原典はスタンフォード大学卒業式で行われたスティーブ・ジョブズ氏のスピーチ（2005年6月12日）であり，下線部の意味的主要部は「最も近似の事柄，最も接近し得た事柄・場所」を示す[7]。（5a）は get close to NP の形容詞 close が最上級形となり先行詞になったと判断できる。同様に，（5b）の最初の the closest は，be close to NP の形容詞 close が，そして（5b）の最後の the closest は，get close の形容詞 close が最上級形の先行詞となっている[8]。

「the closest + 関係節」に関して，中澤（2006）はその派生構造を次のように説明する。

（6）a. [...] [The closest we can come to that] is the *subject-predicate* construction of English.
（我々がそれに最も近づき得るところは（一番それに近い構文は），英語の主語・述語構文である）（Fillmore and Kay 1987: 13）

b. [The closest any of them came to admitting it] was at one place where the personal person told me that he'd love to hire me, but he couldn't.
（人事担当者がそれ［私を雇いたくないということ］を事実上認めたのは，私を雇いたいのは山々なのだが，できないのです，と彼が行った時なのだ）
（Mike Rokyo, "Age is No Asset in U.S. Job Market," *JT* August 3, 1990）

（中澤 2006: 115, 訳も中澤（2006: 116-117）による）

まず，中澤（2006）では（6a, b）の角括弧部分の根底にある構造を，以下のように示している。

（7）a. [we can come（the）closest to that]
b. [any of them came（the）closest to admitting it]

中澤（2006: 116）

中澤（2006: 116-117）は，（6a, b）の根底にある構造として，そもそも意味的主要部に相当する名詞句「場所」や「事柄」は関係節の中に見当たらず，（6a, b）の意味的主要部に対応するために，the closest thing なり the closest point といった名詞句を，上記の（7a, b）に代入しても，以下の（8a, b）のように文法的に不適格となると説明している。

（8）a. *[we can come the closest thing to that]
b. *[any of them came the closest point to admitting it]

中澤（2006: 117）

このことから，中澤（2006: 117）は，「（6a, b）は，それぞれ（8a, b）から派生されたのではなく，（7a, b）から派生されたと言うべきである」と述べている。

河野（2014: 32）においても，先行詞が the closest 以外の最上級形の形容詞・副詞の事例である（4a, b）に対して，「派生のいかなる段階においても先行詞として名詞表現を想定することはできないということに特に注意しなければならない」としている。また, 河野（2012, 2014）では，そもそもなぜ最上級形の形容詞・副詞が先行詞となりうるのかという根本的な問いに対しても答えている。しかし，紙幅の制約上，本稿ではこれらを網羅的に取り上げることはできないため，以下にその理由を簡潔に示す。

（a） 最上級の共起する関係節には，通常の制限的関係節と「最上級の関係節」の少なくとも 2 種類が存在する。
（b） 「最上級の関係節」の修飾対象は，名詞表現ではなく，最上級形の -est, most あるいは，それらが表す概念である。
（c） 「最上級の関係節」が最上級 -est, most の範囲を要求する関係節であるため，「先行詞」は必ずしも名詞表現である必要はない。

上記の（a)-(c）の詳細な論述は，河野（2012, 2014）を参照されたい。

3.3 最上級形における the の有無

以下の学習参考書の説明を見てみよう。

（9） I am **happiest** when I am with my family.
私は家族といるときが最も幸せだ。
（10）This lake is **deepest** here.
この湖はここが一番深い。

（『ジーニアス総合英語』p. 288）

(9)（10）は他の学習参考書でも幅広く記載されている例である。『ジーニアス総合英語』は, (9) に対し，「自分自身の中での比較であり，私と誰かと比較して『一番幸せ』と言っているのではない。このように**比較対象が自分自身の場合，最上級には the が付かない**」（p. 288）と太字で強調して説明している[9]。この記述自体には何ら問題はない。

では，（4a, b）以外にも，最上級形の形容詞・副詞が名詞を伴わずに先行詞となっている事例を見てみよう[10]。

（11）I am in my late 60s, and the sickest I've ever been was when I had bronchitis several years ago. （*The Washington Post* 電子版 , 2020/2/29, Carl Goldman 氏執筆）
（12）Oh, I don't just look happy. I am happy. I am the happiest I have ever been.
（COCA 2018: TV）
（13）It was the most beautifully she had ever played.
（Rachel Heng 著 . 2018. *Suicide Club: A Novel About Living,* Google Books による）

もし学習者が（11)-(13）のような事例に出会ったとき，「(9)（10）と同じように自分自身の比較で他者との比較を示してはいないのに，なぜ the が付くのか」という疑問が生じる可能性がある。特に，(13）に関しては，一般に「副詞の最上級形には名詞を伴わないため the がつかない」という前提知識があるため，学習者が混乱するように思われる。なお，Huddleston and Pullum (2002: 1169）は，（4a, b）における the lowest や the most efficiently の the が義務的であると既に指摘しているが，なぜ義務的なのかは提示されていない。

その問いに対する答えを考える前に，(9)（10）と（11)-(13）の違いを確認しよう。(9）は下線部 when 節が範囲指定語句であり，（10）は下線部 here が範囲指定語句と考えられる。その一方で，(11)-(13）は範囲指定となっている語句が関係節である点が異なる。

筆者の考えでは，先行詞であることを読み手・聞き手に明確に示すために（11)-(13）は the を義務的に伴っている。つまり，the を落とせば，先行詞ではなく通常の最上級形の形容詞・副詞と受け手側に判断される可能性があるからである。そのような混乱を避けるために，the が義務的なのである。さらに，the を伴うことで，最上級の形容詞・副詞が「名詞的なもの」として機能するとも考えることができる。

最後に，柏野（2012: 326）が the の有無を意味的に「一般論」と「特定の時」とに分けて，インフォーマントの提供例を踏まえて説明している。これも今後検討すべき論点のため引用する。

（14）a.　This lake is *deepest* at this point.［一般論］
　　b.　It's been raining for a fortnight. This lake is *the deepest* it has ever been.
［特定の時（今）に言及］

（15）a.　Bill is *happiest* when he is alone.［一般論］
　　b.　Bill is *the happiest* I have seen him for years.［特定の時（今）に言及］
柏野（2012: 326）

上記のように，the を伴う伴わない事例を，意味の観点からも説明することは重要であるように思われる。

3.4　学習者に対する説明

結局のところ，教授者は学習者に対してどのような説明を与えればいいのだろうか。筆者の考えでは，最上級形の形容詞・副詞が先行詞となる事例を，原則として教授者側が学習者に対して，積極的に教授すべきではない。しかしながら，最上級形の形容詞・副詞が先行詞となる事例に学習者が出会う可能性はある。そのときの質問者に対して，教授者側は，少なくとも「先行詞 the closest の直後には，thing や point のような名詞が省略されている」のような誤った説明を与えてはならない。「形容詞・副詞の最上級形が名詞を伴わずに関係節の先行詞となることはある。ただし，無秩序に形容詞や副詞が先行詞になるということではなく最上級形に限られる事例であり，かつ the を義務的に伴う」という旨の説明をすることが望ましいであろう。

4. as ... as ever lived の再検討

本節では，まず as ... as ever lived（極めて ...，並はずれた）の辞書や学習参考書における記述を確認する。次に，八木・井上（2013), 八木（2016）を基に，COHA, COCA（full text), COCA における該当数と英語母語話者の見解を踏まえ，as ... as ever lived を学習参考書に取り上げる意義を検証する。

4.1 辞書における as ... as ever lived の記述

まずは，辞書における as ... as ever lived の記述を確認する。

（16）Dante was ***as*** fine a poet ***as ever lived***.　（(文)）ダンテは並はずれたすばらしい詩人だった <<◆最上級の意味ではない . 話し言葉では Dante was as fine（a poet）as any poet that ever lived. という >>.　（*G*[5], s.v. *ever*）

（17）He is ***as*** great a boxer ***as ever lived***.（(まれ)）彼は並外れた強さのボクサーだ .
（*W*[4], s.v. *ever*）

G[5] や *W*[4] 共に「並外れた ...」という訳語を与えている。また，共に as ... as ever（相変わらず ...）の項において，as ... as ever lived を取り上げた上で，((文)) や ((まれ)) としている。なお，*LDOCE*[6] や *OALD*[10] では，成句としても取り上げられておらず，該当する例文も見当たらない。

4.2 学習参考書における as ... as ever lived の記述

次に，学習参考書で as ... as ever lived がどのような記述がなされているかを確認する。

（18）He is **as** great a scholar **as ever lived**. 彼は不世出の学者だ。
<as + 原級 + a + 単数形の名詞 + as ever lived> は「古今まれな〜，並外れた〜」という意味の文学的表現である。「これまで生きてきた誰にも劣らないくらい〜」ということで，やはり同レベルの存在は否定されていない。< 原級 + a + 単数形の名詞 > の語順に注意。
（『ジーニアス総合英語』pp. 271-272）

449. ①: **as ... as ever lived** は「古来まれに見る ...，並外はずれた ...」▶ 口語ではあまり使われない表現だが入試には出題されている。lived 以外の動詞が使われることもある[11]。
▶ <**as** + **形容詞** + **a** + **名詞** + **as**> の語順に注意。× as a great scientist as としてはいけない。
（『三訂版［データ分析］大学入試アップグレード UPGRADE 英文法・語法問題』p. 159）

4.1 節と同様に，as ... as ever lived は文学的表現であり，今ではまれな表現であるとまとめるこ

とができる。このことは，4.5 節で述べる英語母語話者 4 名の見解とも一致する。

4.3　八木・井上（2013）における問題提起

八木・井上（2013）は as ... as ever lived に関して，以下のように記述している。

> as ever lived という「イディオム」（仮にそれが存在するとして）は BNC, WB いずれにも用例はない。Google で as ever lived を検索するとかなりの数がヒットするが，日本のサイトではほとんどが英文法を名乗る記事で，この as ... as ever lived を解説しているものである。アメリカ合衆国，イギリスのサイトに絞って検索するとこれもかなりの数がヒットするが，大半は 18,9 世紀の古典文学で使われた例であることがわかる。[...]　八木・井上（2013: 257）

その上で，八木・井上（2013: 259）では，as ... as ever lived の lived 以外の動詞が生起する例を複数示している。以下に 1 例のみ示す。

（19）She was *as good-living a woman as ever stepped*; but lightsome like, as foreign folks are. The maid was a Lyonoise of twenty, and *as brisk and lively a French girl as ever moved*.
（SV. LYONNAIS（1768 Sterne *Sent. Journ*. II 201））（cf. 八木・井上（2013: 259））[12]

このことから，八木・井上（2013: 260）では，as ... as ever lived は as ... as ever ... の形をとる 1 つの表現法にすぎないとし，さらに「今では as ever lived が使われることはない」（八木・井上（2013: 261）），「このような表現は今では使わないことを知っておかねばならない」（八木 2016: 169）としている。そこで，次節では，八木（2016: 169）の指摘するように as ... as ever lived は今ではもはや使われない表現なのかを調査する。

4.4　COHA, COCA（full text）, COCA での調査

4.3 節で見たように，八木（2016: 169）は，「このような表現は今では使わないことを知っておかねばならない」としている。しかし，八木・井上（2013: 257），八木（2016: 167）では，Google での調査時に，具体的にどう入力して検索したのかが詳細には述べられていない。また，「as ever lived という熟語（仮にそれが存在するとして）は現代英語のコーパスでは見つけることができない」（八木 2016: 166-167）としているが，その際に COCA（full text）および COCA を用いた調査は行われていたかどうかは定かではない。

そこで，as ever lived で COHA, COCA（full text）, COCA を検索してみると，as ... as ever lived は COHA で 71 例，COCA（full text）で 3 例，COCA で 5 例存在した[13]。以下に，COCA で該当した全 5 例（2020 年 5 月 24 日確認）を示す（COHA と COCA との重複事例はない）。

（20）“As Kind and Generous a Host as ever Lived”: Howard Eaton and the Birth of Western Dude Ranching.　（COCA 2018: Academic）

（21）I do think Mrs. Long is as good a creature as ever lived — and her nieces are very pretty behaved girls, and not at all handsome: I like them prodigiously.”　（COCA 2012: Web）

（22）“tho’ he inherited little enough but debt when his father went off — the old gentleman being as deep a gambler as ever lived. [...]”　（COCA 2011: Fiction）

（23）Samuel Downing, a soldier who followed him across Freeman’s farm, said: “He was as brave a man as ever lived.”　（COCA 1998: Magazine）[14)]

（24）[...] but another attested to his valor and that of his men, saying, “The Negroes fought gallantly, and were headed by as brave a colonel as ever lived.”　（COCA 1990: Newspaper）

該当例が少ないものの，COCA（full text）で 3 例，COCA で 5 例存在したことを考慮すれば，八木･井上（2013: 261）のように「今では as ever lived が使われることはない」と断定するのは，少々言い過ぎである。しかし，入試頻出英文法・語法問題集や英熟語集のような学習参考書で，高校生に as ... as ever lived を成句としていまだに覚えさせる意義があるのかを問題提起した点において，八木・井上（2013）は重要であると思われる。

4.5　英語母語話者による as ... as ever lived の見解

4 名の英語母語話者に対し，筆者が “Do you use the expression ‘as ... as ever lived?’ And what do you have the impressions of the sentence like ‘He is as great a scholar as ever lived.’” と意見を求めたところ，“I do not utilize the expression ‘as...as ever lived’ frequently. I do not believe it is used frequently in modern English.” という旨の見解を 4 名中 3 名が述べている。その一方，1 名は，“I can imagine using this pattern. Not often, perhaps, but it is not anachronistic.”（下線は引用者による）と，あまり使わないものの，必ずしも時代錯誤的な表現ではないとも述べている。また，ある英語母語話者教員（男性 60 代，イギリス人）は，「同じ as ... as 構文を用いるのなら，as ... as ever lived よりもむしろ as ... as has ever been の方が標準的である」と提案している。

（25）Because this entertainer was as great an entertainer as has ever been, right?
（COCA 2007: Spoken）

（26）[...] : their “FemtoSats “are meant to be as cheap a space-bound platform as has ever been devised.　（COCA 2016: Magazine）

また，学習参考書の中には，as ... as ever lived ではなく，as ... as ever ... の例文として as ... as has ever been p.p. を載せているものもある。

（as + << 原級 + a[an] + 名詞 >> + as ever ~）で，「これまで～した誰［何］にも劣らず ...」ということを表す。つまり，「きわめて ...」「並外れて ...」ということ。

This is **as great a book** on the history of sumo **as** has **ever** been written.

（これは相撲の歴史について書かれた最も優れた本だ）

（『クラウン総合英語 第 3 版』p. 223）

ただし，上記のように「最も優れた本だ」という訳語を与えてしまうと，他者との比較を示す「相対最上級」として解釈される可能性もある（つまり，他に同レベルの優れた本は存在しないという解釈される可能性があるということである）。さらに，「きわめて ...」「並外れて ...」という解説とも整合していないため，「極めた優れた本だ」にとどめておくべきである。

4.6　学習参考書に as ... as ever lived を載せる意義

LDOCE[6] や *OALD*[10] で成句としても取り上げられておらず，該当する例文も見当たらない点，また COCA（full text）で該当した例が 3 例，COCA で 5 例だった点，英語母語話者 4 名のあまり使わないという意見から，筆者は学習参考書に as ... as ever lived を載せる意義は薄くなりつつあると主張する。もちろん，文学的表現として古い文献を読む際には，いまだに必要であるという見解もあろう。しかし，少なくとも学習参考書には「文学的表現」「現代英語ではまれ」「lived 以外の動詞が生起する」という 3 点は記述しておくべきである。

本節では，as ... as ever lived のみを取り上げたが，何もこの事例に限ったことではなく，高校生が大学入試に向けて暗記している英熟語・慣用句を改めて検証する必要があろう。大学入試改革が進む昨今の英語教育界ではあるが，まずはこれまで無批判に引き継がれてきた英語表現や文法項目を，改めて検証することから手当てすべきではないだろうか（cf. 柏野 2012: 305, 八木 2016: 152-153）。

5. 結語

本稿では，学習英文法における比較表現を再考し，主に以下の 3 点を主張した。

[I]　2 節では，COCA（full text）による頻度表から significantly, slightly, considerably, substantially と比較級は共起する傾向が強いことを明らかにした。その一方，COCA では very, highly, fairly が比較級を修飾する実例は存在するものの，学習者に対しては，混乱を避けるため，very, highly, fairly は比較級を修飾できない副詞と提示する方がよい。

[II]　3 節では，形容詞・副詞の最上級形が名詞を伴わずに関係節の先行詞となりうる事例を確認した。それは，従来の学習参考書の「先行詞には名詞表現を伴う」「先行詞は名詞句である」という基礎的知識では対応できない。なお，指導者側は必ずしもその事例を積極的に教える必要はないが，質問された際には適切な説明を与えなければならないと主張した。

[III]　4 節では，学習参考書に as ... as ever lived を載せる意義は薄くなりつつあると主張した。その理由として，*LDOCE*[6] や *OALD*[10] で成句としても取り上げられておらず，該当する例文も見当たらない点，また，COCA（full text）で該当した例が 3 例，COCA で 5 例だった点，そして，英語母語話者 4 名があまり使わないと指摘した点を根拠として挙げた。

今後の課題として，学習英文法における「最上級」という用語についても，幾分詳細な定義を与える必要があろう。学習参考書の記述には，「最上級」という用語を，語の形そのものについて使っているのか，ただ単に程度が極めて高いという意味で使っているのか，トップ集団という意味で使っているのか，あるいは「最上級」を同レベルのものが存在しないという唯一性を持った意味で使っているのかが曖昧なものがある。よって，学習者に極力誤解を与えないよう，「最上級」という用語が使われた英文の日本語訳も含めた検証が求められる。

注

＊本稿の準備段階で貴重なコメントをしていただいた滝沢直宏氏，David Coulson 氏，徳永和博氏，英語母語話者の方々に感謝申し上げる。もちろん，本稿に残された不備はすべて筆者の責任である。

1）本稿でいう学習参考書とは，高校生が学校で副読本として購入するような英文法・語法の参考書や，大学入試向けの英文法・語法問題集や頻出英熟語集を指す。

2）比較級を修飾する ly 副詞に関しては，『公式 TOEIC® Listening & Reading 問題集』でも，以下のようにして問うている。

(i) The metal used by XRRM Co. to manufacture beverage cans weighs ..... less than it did a few years ago.

(A) tightly　(B) enough　**(C) substantially**　(D) only

飲料用の缶を製造するために XRRM 社によって使用される金属は，数年前よりも重量が大幅に減っています。

正解 C 選択肢は全て副詞の働きをもつ語。[...] 形容詞の比較級 less を修飾し，かつ「缶を製造するために使用される金属は，数年前よりも重量が減っている」という文意に合うのは，(C) substantially「大幅に」。[...]

（『公式 TOEIC® Listening & Reading 問題集 4 別冊「解答・解説」』p. 137）

(ii) Although a reduction in metal thickness would make the container ..... lighter, its strength would suffer as a result.

(A) repeatedly　(B) regardlessly　(C) decreasingly　**(D) considerably**

金属の厚さの削減は容器を著しく軽くしますが，結果としてその強度は損なわれるでしょう。

正解 D 選択肢は全て副詞。カンマの前は譲歩を表す Although で始まる節で，「金属の厚さの削減は容器を.....軽くするが」という意味。空所の後ろに形容詞の比較級の lighter「より軽く」があるので，比較級を修飾して「著しく」を意味する (D) considerably が適切。[...]

（『公式 TOEIC® Listening & Reading 問題集 6 別冊「解答・解説」』p. 51）

2 問とも選択肢の語の意味の比較から，正解を問題なく選べるものの，学習英文法において，何らかの形で，比較級を修飾する ly 副詞を学習者に提示しておくことは必要であろう。

3）COCA（full text）は，Web 上で利用できるものとは異なり，著作者への配慮のため 200 語につき 10 語が伏せ字になっている。本稿で使用するのは，この COCA（full text）の 1990 年から 2012 年までの 4 億 4,000 万語から成るものである。

4）considerably と slightly に関しては，既に *W⁴*（s.v. *considerably*）で「*!* 形の比較級を修飾して強調したり，変化を表す change, vary, improve などの動と共によく用いられる」，*W⁴*（s.v. *slightly*）は「*!* しばしば形の比較級を修飾する」と記述されている。しかし，本稿では，COCA（full text）を用いて，改

めてその頻度を検証している。

5）highly に関しては，「highly はフォーマルな語で，修飾される形容詞は普通 2 音節以上の語に限られる（highly evident/*clear/satisfactory/*good; Bolinger, p. 53）」（八木 1987: 195）という指摘があるため，そもそも音節上の観点から -er が共起しにくいという可能性もある。また，本稿では，ひとまず fairly を「程度の高いことを示す ly 副詞」として扱ってはいるものの，Swan（2016）では “It does not suggest a very high degree:” と必ずしも程度が高いことを示さない点が指摘されている。

6）Web 版での情報（2020/5/24 確認）によると，COHA は 1810 年代から 2000 年代までの 4 億語超，COCA は 1990 年から 2019 年までの 10 億語超から成るという。

7）「最も近似の事柄，最も接近し得た事柄・場所」の文言は，中澤（2006: 117）の説明を参考にした。なお，英英辞書にも the closest が先行詞となり，「最も接近し得た場所」を示す事例が記載されている。

（iii）This is **the closest** we can get to the beach by car. （*OALD*[10], s.v. *close*）

（車では，これより先のビーチには行けない）

8）筆者は the closest を形容詞の最上級形と判断して問題ないように思われるが，岡田・吉田（2018: 20）では the closest を副詞の最上級形と捉えている。ただし, come[get] close to NP の close が先行詞になっているという派生過程そのものの考え方は同じである。

9）ただし，柏野（2012: 325）が指摘しているように，同じ人・物の中で性質や状態を比較するときでも機械的に the を付ける英語母語話者も存在する。

10）（11）（12）を，それぞれ簡潔にパラフレーズすると，the sickest ever, the happiest ever となる。

11）このように，lived 以外の動詞も共起するという情報は必要である。以下の岡田（2003）も同様の旨の記述をしている。このような提示の仕方は，妥当である。

> “**as + 原級 + as ever + 過去の動詞**” という構文は，**「これまでのどんな～とも肩を並べる ...」**という意味である。この構文では，ever の後の「過去の動詞」がどんなものであっても，とくにそれを訳す必要はない。 （岡田 2003: 228）

12）ただし，八木・井上（2013）では，as ... as ever lived を「古今の人に負けず劣らず」という「同等の強意」の意味に過ぎないと主張し，「史上まれにみる ...」や「史上もっとも」のような最上級のように解釈されかねない訳出を否定している。ここで，八木・井上（2013）のいう最上級とは，他者との比較を示す相対最上級の意であると推察する。よって，（19）の訳出も最上級ではなく「彼女はかつてステップを踏んだ女性と同じように裕福だった . しかし，動きは外国人のように優雅だった . そのメイドはリオン生まれの 20 歳で，動きはフランス女性のように機敏で生き生きしていた .（下線は引用者）」（pp. 259-260）となっている。しかし，筆者は，as ... as ever lived に対して「史上まれに見る ...」の訳語でも問題ないと判断する。なぜなら，「史上まれに見る ...」の「まれ」は「めったにないさま。めずらしいさま」（『広辞苑』第 7 版）の意で「極めて珍しいさま」であり，「最も ...」のように必ずしも唯一性を含意した表現とは限らないからである。この点に関する詳細な論証は，別稿に譲る。

13）as ever lived で検索すれば，2 番目の as が落ちることはないので，非該当例を避けることができる。その一方，as ... as 構文の最初の as は落ちることがある（cf. Quirk *et al.*（1985: 1138））。その場合，<as + 原級 + a + 単数形の名詞 + as ever lived> という語順ではなく，以下のようになると思われる。

（iv）She is a good-hearted critter **as ever lived**, if she is my sister. （COHA 1845: Fiction）

しかし，英語母語話者 4 名に，（iv）のような容認可能性判断を求めたところ，全員が「ほとんど意味をなさない」「as ... as 構文を壊している」として容認しなかった。よって，このタイプは該当しない例としている。なお，<as + 原級 + a + 単数形の名詞 + as ever lived> の単数形の名詞が複数形となる <as + 原級 + 複数形の名詞 + as ever lived> の事例は，該当するものとして扱っている。

14）He was as brave a man as ever lived. に対して，英語母語話者の一人は，「故人を碑文でその功績・業績をたたえるような際に使う印象である」と述べている。

参考文献

Huddleston, R. and G. K. Pullum. 2002. *The Cambridge Grammar of the English Language*. Cambridge: Cambridge University Press.

柏野健次 . 2012.「教えるための英文法―比較表現編―」『英語語法詳解　英語語法学の確立へ向けて』東京 : 三省堂 .

河野継代 . 2012.『英語の関係節』東京 : 開拓社 .

河野継代 . 2014.「最上級と共起する関係詞節について」『英語語法文法研究』第 21 号 , 27-46.

Quirk, R., S. Greenbaum, G. Leech and J. Svartvik. 1985. *A Comprehensive Grammar of the English Language*. London: Longman.

中澤和夫 . 2006.「最上級に導かれる関係節」『英語語法文法研究』第 13 号 , 111-126.

岡田伸夫（監）. 2003.『解釈×語法×作文のためのパターン学習　英語の構文 150 Second Edition』京都 : 美誠社 .

岡田伸夫・吉田幸治 . 2018.「学習英文法の研究とその英語教育への応用」*JACET Kansai Journal*, 20, 11-22.

澤田治美 . 2018.「意味論・語用論を活かした英語の授業―“x as ... as y” 構文の意味解釈をめぐって―」『英語学を英語授業に活かす』池内正幸・窪園晴夫・小菅和也（編）. 東京 : 開拓社 .

Swan, M. 2016. *Practical English Usage*. Fourth Edition. Oxford: Oxford University Press.

滝沢直宏 . 2017.『ことばの実際 2 コーパスと英文法』（シリーズ英文法を解き明かす―現代英語の文法と語法 10）内田聖二・八木克正・安井泉（編）. 東京 : 研究社 .

八木克正・井上亜依 . 2013.「同等比較表現の再検討―as ... as any（...）/ as ... as ever lived」『英語定型表現研究―歴史・方法・実践―』東京 : 開拓社 .

八木克正 . 2016.『斎藤さんの英和中辞書―響き合う英語と日本語を求めて』東京 : 岩波出版 .

八木孝夫 . 1987.『程度表現と比較構造』（新英文法選書 第 7 巻）東京 : 大修館書店 .

辞書

井上永幸（編）. 赤野一郎（編）. 2019.『ウィズダム英和辞典 第 4 版』東京 : 三省堂 .［*W*[4] と略記］

南出康世（編）. 2014.『ジーニアス英和辞典 第 5 版』東京 : 大修館書店 .［*G*[5] と略記］

Longman Dictionary of Contemporary English 6th ed. 2014. Harlow: Pearson.［*LDOCE*[6] と略記］

Oxford Advanced Learner's Dictionary 10th ed. 2020. Oxford: Oxford University Press.［*OALD*[10] と略記］

学習参考書

中邑光男・山岡賢史・柏野健次（編）. 2017.『ジーニアス総合英語』東京 : 大修館書店 .

霜康司・刀祢雅彦・麻生裕美子（編）. 2014.『三訂版［データ分析］大学入試アップグレード UPGRADE 英文法・語法問題』東京 : 数研出版 .

霜崎實（編）. 2016.『クラウン総合英語 第 3 版』東京 : 三省堂 .

コーパス

Corpus of Contemporary American English（https://www.english-corpora.org/coca/）［COCA と略記］

Corpus of Contemporary American English の COCA（full text）版［COCA（full text）と略記］

Corpus of Historical American English（https://www.english-corpora.org/coca/）［COHA と略記］